

(案)

(仮称) 佐渡市博物館ビジョン (整備方針)【叩き台】

佐渡市教育委員会

令和2年8月1日

2019. 11. 06

目 次

1	はじめに 佐渡市立博物館・資料館の現状と課題	P 1
2	目的	P 1
3	総体的な将来ビジョン	P 1
4	博物館に求められる使命と活性化施策の方向 【3つの使命】 （1）生涯学習の拠点として市民の学びと体験を支える博物館 （2）子どもの成長や学びを支援する博物館 （3）地域の文化やコミュニティをサポートする博物館 【9つの活性化施策の方向】 ①郷土博物館の役割と方針の再認識 ②調査研究活動の推進 ③市民参画と連携 ④企画展示の計画的な開催 ⑤情報発信と交流 ⑥博物館運営の評価と点検 ⑦市の行財政との調整 ⑧観光地としての博物館の位置付け ⑨教育・学習支援	P 2
5	整備計画 資料分類による特色ある展示 ①民俗資料 ②歴史資料 ③美術作品 ④考古資料 ⑤自然科学資料	P 4
6	実施計画	P 6

資料 1 佐渡市博物館・資料館の整備計画（案）（たたき台）

1 はじめに

佐渡市立博物館・資料館の現状と課題

平成16年の佐渡市誕生以来、従来の博物館・資料館の運営を維持してきた。全体的には設立以来の常設展示を継続し、利用者（入館者）も観光客への依存度が高い。逆に施設の性格上、市民全体にとっての生涯学習施設という位置づけが低く、定期的に利用するリピーターも少ない。

一方、各施設に配置されている職員数は年々削減されており、学芸職員が事務的処理に追われているのが現状である。その状況から、学芸職員の本来業務である調査研究活動、収蔵品の管理や常設展示の更新、資料収集・特別展の企画等の業務遂行が厳しい状態に置かれている。

加えて、市の行財政改革により年々運営費が縮小されていく中であって、施設管理経費が予算の大部分を占め、実績となる事業費の割合は極一部に過ぎないのが実情である。

これまで庁内外の関係者の中でも、従来の博物館・資料館を守ることが地域の文化を守ることになるという認識が強かったが、合併により行政が広域化し、行財政の健全化が叫ばれる中、大胆に施設の整理廃合を推進しつつ、博物館・資料館が果たすべき役割を再検討すべき時期に来ている。

2 目的

本ビジョンは、法に基づいて博物館が行うこととされている、資料の収集・保管・展示、調査研究、教育普及活動等を実施するにあたり、博物館の水準の維持及び向上を図ることにより、市民の教育、学術及び文化の発展並びに地域の活性化に貢献することを目的とする。

3 総体的な将来ビジョン

博物館・資料館については、佐渡の歴史・文化・自然に係る資料収集・調査研究・展示を行う教育施設と位置づけ、民俗、歴史、美術、考古、自然の5分野に区分し、既存施設を再整備する。

上記の在り方を目指して施設の整理統合を推進し、拠点施設の外は収蔵施設として存続するものと、廃止すべき施設等に分ける。

また、学芸担当職員は、互いに協力しながら資料収集及び調査研究を行い、特別展（企画展）を開催するとともに、学校の授業対応や体験学習等の普及啓発、ホームページの整備、年報（博物館紀要）の作成等、博物館本来の教育機関としての役割を強化し、郷土文化の振興に尽力する。

4 博物館に求められる使命と活性化施策の方向

博物館の基本機能は、法第3条において規定されていることから、佐渡市に残された考古・歴史・民俗等の資料について収集・保管・展示をするとともに調査研究を進め後世に伝えることが必要である。

また、収集した資料や調査研究の成果を活用することにより、市民と共に佐渡の歴史・民俗・産業・芸術・自然科学等に関する資料を見て、触れて、楽しみながら郷土を学び合う場を作り上げ、発展させていくことが使命として課せられていると考えられる。

一方で、貴重な美術作品や歴史資料を多く保有しているが、保存・保管については従来軽視されてきた要素である。

適正な環境下での展示や保管は、本来博物館の大きな使命であり、今後施設を絞り込みながら燻蒸施設や美術作品・歴史資料専用の保管施設の整備を急ぐ必要がある。また、諸資料の寄贈依頼や庁内における施設整理が進む中、それに対応すべき収蔵施設の確保も大きな課題となっている。

生涯学習の拠点として、あらゆる年代に合せた活動を展開するとともに、市内の地域それぞれの活性化に繋がる活動が求められている。

このような社会的及び時代的な要素に答えていくために、博物館に求められるものとして、【3つの使命】を定め、【9つの活性化施策の方向】を置くこととする。

【3つの使命】

(1) 生涯学習の拠点として市民の学びと体験を支える博物館

- ① 地域の自然・考古・歴史・民俗・文化的資産の保護と活用
- ② 博物館資料と博物館機能を活用した生涯学習機会の提供
- ③ 関係機関とのネットワークの充実と強化

(2) 子どもの成長や学びを支援する博物館

- ④ 学校等の支援と連携の強化
- ⑤ 家族で学び、体験する場の提供

(3) 地域の文化やコミュニティをサポートする博物館

- ⑥ 博物館活動を通じた地域コミュニティの活性化

【9つの活性化施策の方向】

①郷土博物館の役割と方針の再認識

従来の郷土博物館や歴史民俗資料館は、民俗関係資料の量的な展示・公開に重点を置いており、総じて説明が少ない。専門の研究者は除き、一般市民や観光客には理解できない部分も多い。また、財政的な事情もあり、開設以来の常設展示が20年以上更新されていないのが実情で、市民リピーターの少ない大きな原因となっている。佐渡や地域の歴史・文化・自然を総合的に調査研究し、広く分かりやすく紹介するのが博物館の使命である。市民をはじめとする来館者のニーズも考慮しながら、常設展示を定期的に更新するなど魅力ある展示公開に努める。

②調査研究活動の推進

博物館の展示をはじめとする事業の根幹にあるべきものは調査研究活動である。佐渡や地域の歴史・文化・自然をマクロ・ミクロの視点から観察する目を常に持ち、それを博物館事業に反映させる必要がある。そのために、地域や研究者との交流も踏まえつつ、博物館職員の資質向上に努める。

③市民参画と連携

佐渡や地域の歴史・文化・自然に興味を持っている市民は数多い。博物館を運営する中で、職員による事業の企画に終始していることが多いが、市民のための博物館という郷土博物館や資料館の理念に立ち返り、運営方法を再考する必要がある。各博物館・資料館では行政改革の中、活性化のための十分な体制が確保できない現状にある。展示解説や体験学習などに市民ボランティアを導入し、市民と連携しながら活性化を図る必要がある。展示解説員の養成講座や友の会組織の設立が必要である。

④企画展示の計画的な開催

博物館における調査研究成果の公開とリピーターの創出のためには、計画的な企画展示の計画的な開催が不可欠である。博物館の評価にも大きく関わる要素であり、体制や展示スペースの制約もあるが、最大限の努力が必要である。

⑤情報発信と交流

市民・観光客から博物館事業を理解していただくためには、展示や事業の宣伝活動も欠かせない。ホームページの充実や観光関係者とのタイアップを含め、積極的な宣伝活動が必要である。

⑥博物館運営の評価と点検

公営の文化施設として、博物館は利潤を追求すべきでないことは言うまでもな

いが、一方では市民の租税負担により運営していることも事実である。博物館運営の投資効果について、入館料収入等の額だけでなく、学校授業への対応や地域への貢献度など、多角的な視点から評価・点検を行いつつ事業を行う必要がある。

⑦市の行財政との調整

公営の施設である博物館として、振興を図る上で佐渡市の行政改革や財政事情との調整は不可欠の要素である。博物館の将来像を描くにあたり、市の財政規模に応じた施設数や、実現可能な事業水準も考慮した上で検討する必要がある。

⑧観光地としての博物館の位置付け

佐渡は県内有数の観光地であることから、観光客のニーズへの対応も重要な要素であり、入館者の中で観光客の占める割合が高いのが現状である。各地の観光地のガイドナシ的な役割、交通アクセスへの配慮など、市民ニーズと合わせ観光客による利用に対する視点も不可欠である。

⑨教育・学習支援

佐渡の将来を担う児童生徒にとって、郷土認識のための博物館の重要性は益々高揚しており、またそうあるべきである。学校授業による利用が多い現状であるが、カリキュラムに即した展示構成や資料の配備は、まだまだ不十分の状態である。学校教育行政や学校関係者との調整を行いつつ、利用しやすい博物館をめざす必要がある。

5 整備計画

資料分類による特色ある展示

①民俗資料

かつては身近な道具でありながら、生活様式の大きな変化に伴い、21世紀に生きる現代人、特に子どもたちにとっては使用方法や、長い時代を経て道具として工夫・改良された点などが理解できなくなっている。数多くの資料を展示することから、解説の充実等を図る時代を迎えている。いずれの施設においても展示のベースになっている資料であり、国の重要有形民俗文化財指定を受けている資料群も多い。加えて、漁具・生活用具・農具・芸能資料など、民俗資料の分野も多様であり、地域性の問題を含め、收藏や展示のあり方に係る課題は大きい。市内の各博物館・資料館で最も展示資料の多い民俗資料については、展示のあり方を大きく見直すべき時期を迎えている。

【主要な施設】両津郷土博物館、小木民俗博物館、新穂歴史民俗資料館

②歴史資料

歴史資料については、体系的な展示がなされている施設が少ないが、所蔵している古文書や歴史資料の数は多い。佐渡や地域の歴史について、また、身近に残る資料保存の大切さを市民に理解してもらうべく、企画展を含め、歴史資料展示の充実を図る必要があると思われる。一方、市町村史等の編纂に関する貴重な資料が、適正に保管・活用されていない現状もある。合併以来放置されているこれらの資料を集約し、市民・研究者等の閲覧に供することも課題である。更には、旧市町村の公文書の整理と保存も大きな問題である。特に戦後以降の保管文書は膨大な量にのぼるが、整理の及ばないまま保管され、一部は既に廃棄されているものもある。これらの中には既に歴史資料的な性格を帯びているものも多い。関係部署と連携しながら、その保存に努めたい。

【主要な施設】佐渡博物館、相川郷土博物館、小木民俗博物館

③美術作品

佐渡は美術作品の宝庫でもあり、3名の人間国宝も輩出している。彫刻や版画等も含め佐渡出身・在住の芸術家が各地で創作活動が続けている。佐渡博物館をはじめ、佐渡市の博物館等が所蔵する美術作品は数多いものの、美術作品を一同に展示する施設は少ないのが現状である。

市民・観光客の美術への関心も高いことから、美術作品を体系的に展示する施設の整備は不可欠な要素といえる。ただ、その一方で貴重な美術作品を適正な環境下で安全に保存できる設備も少ないことも課題の一つである。歴史資料等の保存にもあてはまる課題であるが、佐渡市内で作品の燻蒸施設がないことと、温湿度の調整や防虫・防菌に対応できる収蔵施設がない現状では、折角の貴重な美術作品を将来に伝えることができない。今後の課題として提起したい。

【主要な施設】佐渡博物館、新穂歴史民俗資料館、両津郷土博物館

④考古資料

佐渡は縄文時代以来の埋蔵文化財包蔵地が約1,200箇所を数え、長者ヶ平遺跡(小木)、新穂玉作遺跡、小泊須恵器窯跡群、佐渡国分寺跡等をはじめ、島内外の研究者に大きく注目されている遺跡も多い。戦後埋蔵文化財調査の拠点であった佐渡博物館には、それら主要な遺跡の貴重な考古資料が収蔵され、その一部が展示されている。一方、各市町村で実施されてきた史跡整備や開発に伴う発掘調査による出土遺物の蓄積も膨大な量に及ぶが、保管環境の劣悪さに加え、体系的な考古資料の展示がなされていない。佐渡島の総体的な考古資料を体系的に展示する施設の必要性は高く、考古資料展示の拠点となるべき施設の早急な整備に努めたい。

【主要な施設】佐渡博物館、新穂歴史民俗資料館、相川郷土博物館

⑤自然科学試料

佐渡の豊富な天然資源は、佐渡観光の魅力の一つであり、地質や地理、生物の分野で学術的にも貴重なものが多い。戦後佐渡博物館を中心に生物・地質分野における調査研究の成果が蓄積されてきたが、市立の博物館を含め、自然系の学芸職員が配置されていないため、内外から寄せられる照会にも市として十分に対応できないのが現状である。佐渡市では、平成 22 年度から「ジオパーク」の推進という新たな課題に取り組もうとしている。佐渡各地の金銀山や小木半島の玄武岩が主な構成資産となるが、各地に「ジオサイト」となりうる地質学的な資源が分布している。また、四方を海に囲まれた島であり、地理的条件も含め、佐渡には海・山共に特色ある生物が分布している。このジオパークの取り組みを契機として、佐渡の博物館における自然分野の充実を推進したい。

【主要な現行施設】佐渡博物館、両津郷土博物館

[その他の管轄施設]

佐渡植物園、赤泊郷土資料館、相川技能伝承展示館、史跡佐渡奉行所跡、日本アマチュア秀作美術館、幸丸展示館、畑野鳥越文庫、明治記念堂（開導館）旧北中学校収蔵庫、金井歴史民俗資料館、

6 実施計画

1. 事業計画及び実施状況

佐渡博物館ビジョンに基づいて、博物館活動を行うにあたっては、引き続き PDCA サイクルの手法を用いて、効果的な運用に努めます。

事業計画については、従来どおり年度毎に作成していきます。またこれに基づいて実施する個々の事業についても、年度毎に実施状況報告を作成し、自己点検評価を行います。

これらのことにより、事業の実施によって得られた利用者のニーズや動向を次年度の事業計画に反映させていくとともに、事業の円滑で効果的な実施を図ります。

毎年度の事業計画及び事業実施状況については、協議会への報告事項とする。

2. 評価

博物館活動に対する評価についても、前述の PDCA サイクル手法の強化として、単年度及び個々の事業に関する評価については、協議会を開催する中で随時ご意見を伺い、そこで得られた知見を参考にしながら、次年度以降の事業を実施する際にすみやかに反映させていくこととする。